

(参考)

気象庁が運営する WMO 地区気候センターにおける国際協力活動

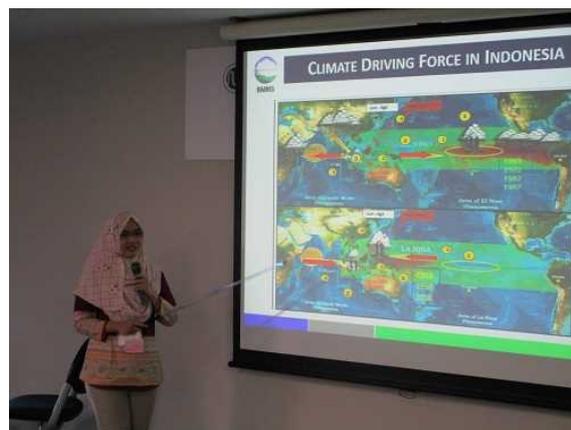
気候は、干ばつ、大雨、熱波、寒波等の極端な現象をはじめとして、さまざまな形で世界中の人々の生活・社会経済活動に影響を与えています。このような気候に関するリスクの軽減を図るため、各国気象局は利用目的に即した精度の高い気候情報の提供に取り組んでいます。当庁は、主にアジア・太平洋地域の気象局による気候情報の提供業務を支援するため、世界気象機関（WMO）の枠組みの下、WMO 第Ⅱ地区（アジア）の地区気候センター（Tokyo Climate Center, TCC）を運営しています。

TCC は、各国気象局に対して天候監視、長期予報等に関する資料や気候解析ツールを提供しており、また、それらを利用して自国に適した気候情報を提供できるよう平成 20 年度から毎年度、国際研修セミナーを開催しています。今年度は、当庁が提供している天候監視資料や異常気象分析ツールなどを利用し、各国・地域の研修員が自国で発生した異常気象の特徴やその要因を解析し、天候監視情報として取りまとめる実習を中心に行います。これまで 10 年以上に渡る人材育成支援（今年度までの 12 回の研修で 27 の国と地域からのべ 176 名が受講）により能力向上が進められ、各国気象局で自国向けの天候監視情報や長期予報等に TCC の情報を活用するなど、気候関連業務の充実に役立てられています。

平成 30 年度国際研修セミナーの様子（気象庁本庁：平成 30 年 11 月撮影）



職員が研修員の実習をきめ細かくサポートし、着実な理解の促進と技術の習得を支援します。



研修員による研修成果発表